

# 令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 大里柳 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

### 1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### 2. 調査内容

#### (1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

#### (2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

### 3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

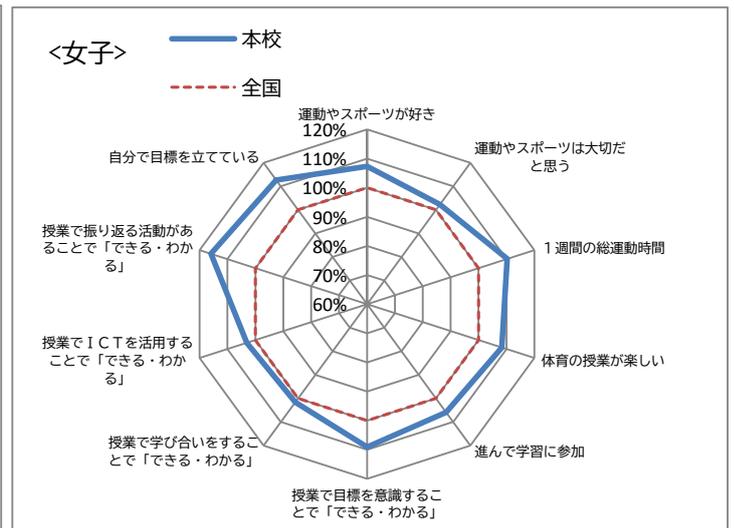
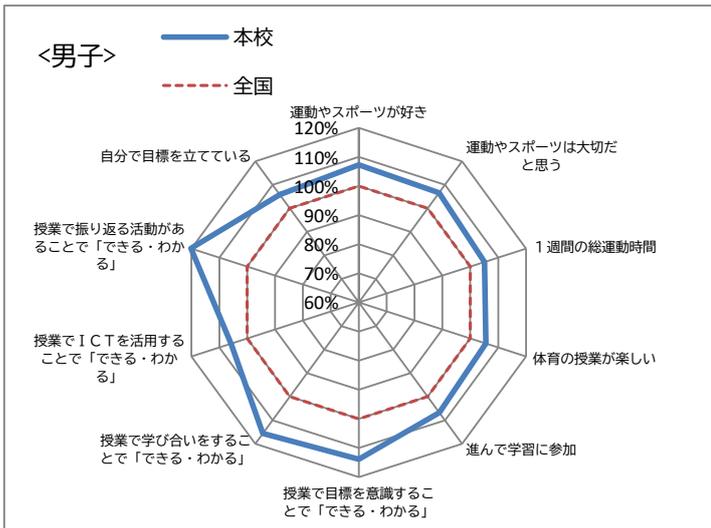
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
本市	15.98	19.39	34.42	40.27	49.36	9.54	150.13	21.81	53.10
本校全国平均以上の種目				○	○			○	○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92
本市	15.88	18.39	38.51	38.13	38.67	9.79	142.58	13.44	54.32
本校全国平均以上の種目	○				○	○	○	○	○

### 4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



#### 質問紙調査の結果分析

本年度の本校の質問について、「思う」「やや思う」をプラス評価とすると、男女ともすべての項目で全国平均と比べ上回っている。各担任や体育科専科教員が、日々の体育科の授業に関して、目標の提示を行い、見通しを明らかにしたり、体育科の授業の中で運動量の確保を行いながら、「話し合う活動」を取り入れ、児童相互が交流し、理解を深めたり経験を共有したりする活動を仕組み、振り返りを行うことができたことが要因であると考えられる。

また、質問紙のうち、「授業でICTを活用することで(分かる・できる)」の項目については、男女とも昨年度と比べ、40%程度アップしている。しかし、肯定的な回答は60%と数値は依然低いので、使用の意図をしっかりと伝えたり、活用の機会をさらに増やしたりして、充実させていきたい。

今後、もっと運動に対する意欲を高め、楽しく運動させるために、教師も一緒に運動し、「先生の体育は楽しい」「先生の体育は大好き」と期待される体育科の授業づくりを目指していく。

## 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 男女ともに体の柔軟性や筋力が平均値を下回る結果となっていたため、体育の授業の準備運動等で体の柔軟性や筋力を高める運動を行う。
- タブレットのカメラ機能などのICT機器を使って、児童が課題を見付けることができるようにタブレットのカメラ機能を使う。動画をとって、児童の動きを確認したり、表現運動のダンスの動きを確認したりして、よい動きを確認することで、自分の課題を考えるような授業に取り組む。
- 全職員で、日々の体育科の授業に関して、目標の提示を行い、見通しを明らかにする。また、授業終わりの「ふり返り」を確実にを行う。
- 全職員で、体育科の授業の中で運動量の確保に向けた取組を行いながら、「話し合う活動」を取り入れ、児童相互が交流し、理解を深めたり経験を共有したりする。
- 運動量や活動時間の確保の為に、指示は短く、ポイントを絞って伝える。
- 体育専科による、専科以外の学年(1~4年)への、授業改善の工夫などの紹介を行う。
- 振り返り、まとめ活動も継続して各学年で十分に行えている。話し合い活動に関しては1学期のアンケートの結果を踏まえ、授業の中でグループ活動や見せ合い活動を仕組み、子どもたちの体力・技能向上に向けた取組を仕組んでいく。

### ② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- 体力向上担当、体育委員会が中心となり、15分休みを利用して、1学期は、「新体力テストに向けて体を鍛える集会」、2学期は「走ろう集会」、3学期は「縄跳び集会」を実施した。来年度も児童の体力向上を行う意欲を1年を通して子どもたちに持たせるようにしたい。
- 体育科の学習の準備運動に「ジャンプアップ運動」を取り入れたたり「『好きっちゃ』プログラム」を取り入れた授業展開を行う。
- 中休みや昼休みの運動場使用の児童数を緩和し、より多くの児童の外遊びを推進する。